



ロールバックの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [ロールバックについて](#) (1 ページ)
- [ロールバックの注意事項と制約事項](#) (1 ページ)
- [チェックポイントの作成](#) (2 ページ)
- [ロールバックの実装](#) (3 ページ)
- [ロールバック コンフィギュレーションの確認](#) (4 ページ)

ロールバックについて

ロールバック機能を使用すると、Cisco NX-OS のコンフィギュレーションのスナップショットまたはユーザーチェックポイントを使用して、スイッチをリロードしなくても、いつでもそのコンフィギュレーションをスイッチに再適用できます。権限のある管理者であれば、チェックポイントで設定されている機能について専門的な知識がなくても、ロールバック機能を使用して、そのチェックポイント コンフィギュレーションを適用できます。

いつでも、現在の実行コンフィギュレーションのチェックポイント コピーを作成できます。Cisco NX-OS はこのチェックポイントを ASCII ファイルとして保存するので、将来、そのファイルを使用して、実行コンフィギュレーションをチェックポイントコンフィギュレーションにロールバックできます。複数のチェックポイントを作成すると、実行コンフィギュレーションのさまざまなバージョンを保存できます。

実行コンフィギュレーションをロールバックするとき、**atomic** ロールバックを発生させることができます。**atomic** ロールバックでは、エラーが発生しなかった場合に限り、ロールバックを実行します。

ロールバックの注意事項と制約事項

ロールバックに関する設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- 作成できるチェックポイント コピーの最大数は 10 です。
- あるスイッチのチェックポイント ファイルを別のスイッチに適用することはできません。

- チェックポイント ファイル名の長さは、最大 75 文字です。
- チェックポイントのファイル名の先頭を **system** にすることはできません。
- チェックポイントのファイル名の先頭を **auto** にすることができます。
- チェックポイントのファイル名を、**summary** または **summary** の略語にすることができます。
- チェックポイント、ロールバック、または実行コンフィギュレーションからスタートアップ コンフィギュレーションへのコピーを同時に実行できるのは、1 ユーザだけです。
- **write erase** および **reload** コマンドを入力した後、チェックポイントが削除されます。**clear checkpoint database** コマンドを使用すると、すべてのチェックポイント ファイルを削除できます。
- ブートフラッシュでチェックポイントを作成した場合、ロールバックの実行前は実行システム コンフィギュレーションとの違いは実行できず、「変更なし」と報告されます。
- チェック ポイントはスイッチに対してローカルです。
- **checkpoint** および **チェックポイント checkpoint_name** コマンドを使用して作成されたチェックポイントは、すべてのスイッチのスイッチオーバー時に存在します。
- ブートフラッシュ時のファイルへのロールバックは、**チェックポイント checkpoint_name** コマンドを使用して作成されたファイルでのみサポートされます。他の ASCII タイプのファイルではサポートされません。
- チェックポイントの名前は一意にする必要があります。以前に保存したチェックポイントと同じ名前の上書きすることはできません。
- Cisco NX-OS コマンドは Cisco IOS コマンドと異なる場合があります。

チェックポイントの作成

1 台のスイッチで作成できるコンフィギュレーションの最大チェックポイント数は 10 です。

手順の概要

1. switch# **checkpoint** { *cp-name* } [**description** *descr*] [**file** *file-name*]
2. (任意) switch# **no checkpoint***cp-name*
3. (任意) switch# **show checkpoint***cp-name*

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>switch# checkpoint { <i>cp-name</i> } [description <i>descr</i>] file <i>file-name</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch# checkpoint stable</pre>	<p>ユーザチェックポイント名またはファイルのいずれかに対して、実行中のコンフィギュレーションのチェックポイントを作成します。チェックポイント名には最大 80 文字の任意の英数字を使用できますが、スペースを含めることはできません。チェックポイント名を指定しなかった場合、Cisco NX-OS はチェックポイント名を user-checkpoint-<i><number></i> に設定します。ここで number は 1 ～ 10 の値です。</p> <p>description には、スペースも含めて最大 80 文字の英数字を指定できます。</p>
ステップ 2	<p>(任意) switch# no checkpoint<i>cp-name</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch# no checkpoint stable</pre>	<p>checkpoint コマンドの no 形式を使用して、チェックポイント名を削除します。</p> <p>delete チェックポイント ファイルを削除します。</p>
ステップ 3	<p>(任意) switch# show checkpoint<i>cp-name</i></p> <p>例 :</p> <p>[all]</p> <pre>switch# show checkpoint stable</pre>	<p>チェックポイント名の内容を表示します。</p>

ロールバックの実装

チェックポイント名またはファイルにロールバックを実装できます。ロールバックを実装する前に、現在のコンフィギュレーションまたは保存されているコンフィギュレーションを参照しているソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示できます。



(注) **atomic** ロールバック中に設定を変更すると、ロールバックは失敗します。

手順の概要

1. **show diff rollback-patch** { **checkpoint** *src-cp-name* | **running-config** | **startup-config** | **file** *source-file* } { **checkpoint** *dest-cp-name* | **running-config** | **startup-config** | **file** *dest-file* }
2. **rollback running-config** { **checkpoint** *cp-name* | **file** *cp-file* } **atomic**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show diff rollback-patch { checkpoint <i>src-cp-name</i> running-config startup-config file <i>source-file</i> } { checkpoint <i>dest-cp-name</i> running-config startup-config file <i>dest-file</i> } 例： switch# show diff rollback-patch checkpoint stable running-config	ソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示します。
ステップ 2	rollback running-config { checkpoint <i>cp-name</i> file <i>cp-file</i> } atomic 例： switch# rollback running-config checkpoint stable	エラーが発生しなければ、指定されたチェックポイント名またはファイルへの atomic ロールバックを作成します。

例

チェックポイントファイルを作成し、次に、ユーザーチェックポイント名への **atomic** ロールバックを実装する例を以下に示します。

```
switch# checkpoint stable
switch# rollback running-config checkpoint stable atomic
```

ロールバック コンフィギュレーションの確認

ロールバックの設定を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
show checkpoint <i>name</i> [all]	チェックポイント名の内容を表示します。
show checkpoint all [user system]	現在のスイッチ内のすべてのチェックポイントの内容を表示します。表示されるチェックポイントを、ユーザーまたはシステムで生成されるチェックポイントに限定できます。
show checkpoint summary [user system]	現在のスイッチ内のすべてのチェックポイントのリストを表示します。表示されるチェックポイントを、ユーザーまたはシステムで生成されるチェックポイントに限定できます。

コマンド	目的
show diff rollback-patch { checkpoint <i>src-cp-name</i> running-config startup-config file <i>source-file</i> } { checkpoint <i>dest-cp-name</i> running-config startup-config file <i>dest-file</i> }	ソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示します。
show rollback log [exec verify]	ロールバック ログの内容を表示します。



(注) **clear checkpoint database** コマンドを使用して、すべてのチェックポイントファイルを削除します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。